

ようこそ 「ディストピア」直行列車へ

2020.10.20 発行



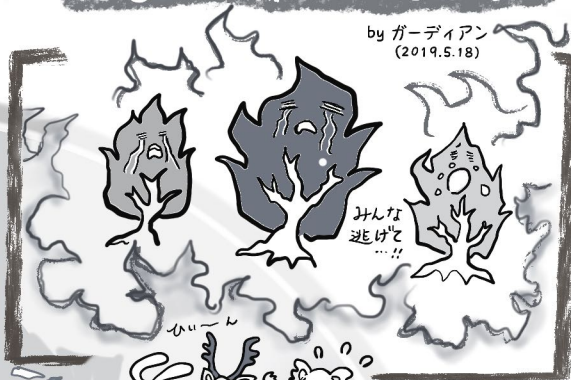
地球危機の解決策を発信・実践しています
「母なる地球を守ろう研究所」

ははラボ通信 第2号

「気候変動ってむずかしい」そんな風に感じられる人も多いのでは？そこで我々「ははラボ」が世界から信頼されている「ガーディアン」の記事を元に徹底解説します！

「地球は80億人どころか
半分の40億人さえ
住むのが難しいだろう」

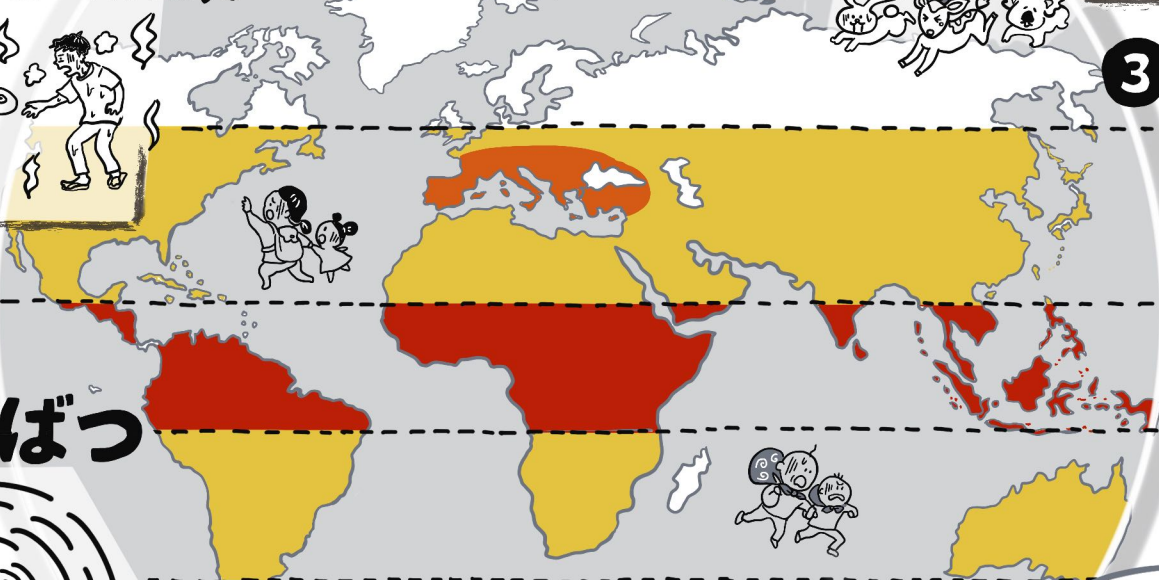
by ガーディアン
(2019.5.18)



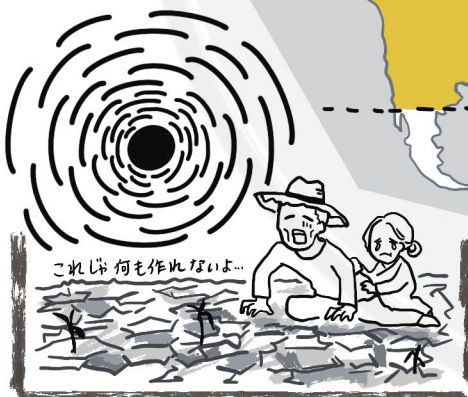
「ディストピア」とは？

ユートピアの反意語で「暗黒世界」と訳されます。
熱波、干ばつ、火災、台風やハリケーンが世界中で
頻発し、さらに酷くなると予想されています。
(詳細は次ページで!)

① 熱波



② 干ばつ



熱帯は暑すぎて住めなくなる。
乾燥地は水不足で住めなくなる。
水や食べ物、住む場所が減ること
でいつか争いが起きるかもしれない...

④ 台風 ハリケーン



地球を乗客70億人以上が乗る列車に例えると
行き先は「ディストピア」直行便です。なんとしても、
行き先を変えなくてはなりません...!

わたしたちの行動、考え方、ひいては
生き方を変えれば、まだ間に合います

仲間として、
共に歩きだそう。



Zoom セミナー 開催中

「気候崩壊について知ろう」(全3回)

今さら聞けない地球温暖化のキホンから、気候危機
に立ち向かうために自分で行きとるべきことや世界や日本
の動きなどをお話します◎

11月14日(土) 20:00 ~
21日(土) 20:00 ~
28日(土) 20:00 ~

参加費 1500円 (事前お振込)
(学生無料! 学生証の写メをご提示下さい)

少人数で
ワイワイ
やってます~



follow us!



イギリスの新聞ガーディアンの記事

「The heat is on over the climate crisis. Only radical measures will work」

「過熱は気候危機の上にある。過激な手段だけがうまく機能するだろう。」

の解説

イギリスの新聞ガーディアンは世界中の環境問題に関心が高い読者から信頼して読まれています。そのガーディアンが衝撃の記事を発表しました(発効日 2019 年 5 月 18 日、11 月 28 日加筆)。

地球は産業革命前から既に 1.1℃暑くなっていますが、このままだと今世紀末までにさらに 2.9℃、産業革命前からだと 4℃暑くなることが十分起こり得る。2015 年に世界が約束したパリ協定では産業革命前からの気温上昇を 2℃以下、できたら 1.5℃以下に抑えると約束したが、各国の進展状況は到底パリ協定に届かない状況だからです。

地球の平均気温が 4℃暑くなった世界では、極地や内陸は 8℃暑くなります。そうすると、

- ・オーストラリア、アメリカ大陸、アフリカ、アジアの熱帯地域は暑すぎて人が住めなくなります。
- ・熱帯の北側（北半球）と南側（南半球）にある乾燥地は砂漠化が進み、水不足で人が住めなくなります。
- ・特にアジアでは、台風や雨がもっと極端になって洪水が増えるでしょう。
- ・世界最大のアマゾンの熱帯雨林は、自然火災に人間による森林破壊が拍車をかけてサバンナになってしまうかもしれません。
- ・南極と北極に次いで 3 番目に大きなヒンズークシ・ヒマラヤ山脈やチベット高原の氷河の 2/3 が 2100 年までに失われるでしょう。
- ・2100 年までに海水面は 2 メートル上昇します。沿岸や島に住めなくなった難民は 20 億人に達するかもしれません。数百年後には海水面は 10 メートル上昇し、最終的には北極と南極の氷が失われます。
- ・我々人類は、氷に覆われていない陸上の半分を既に食料生産に使っています。これほど過酷な条件で 80 億人余りの人口を支えることができるのでしょうか？

これって、ディストピア（暗黒世界）ですよ。

ガーディアンの記事は、今ならまだディストピアを避けることはできる。そのためには、国際的な協調と規制が必要であると結んでいます。4℃上昇してから、未来の世代が元に戻ることはできないのです。

「気候崩壊について知ろう～ これからの 10 年が人類の未来を決める(全 3 回)～」

日本は、2018 年 2019 年と 2 年連続で甚大な台風被害を受けました。被害がこれほど拡大した原因として、海水温が高かったため台風が衰えることなく本土を直撃したことがあげられます。地球温暖化により今後も海水温の上昇は避けられず、今後一層の深刻な台風被害が予想されています。

2019 年のオーストラリアの火事（ブッシュファイアー）や 2020 年の北米の森林火災は観測史上空前の規模となりました。火事がこれほどの規模になったのは、記録的な干ばつと熱波が原因です。火事は、シベリア、アフリカ、ブラジルと世界各地でも発生しています。グリーンランドの氷河や北極海の海氷が空前のスピードで融けています。氷が融けると太陽光の吸収が高まり、さらなる気温上昇を招きます。

食料生産を担う農業も、わたしたちの暮らしの安全も、安定した気候（母なる地球）が大前提です。その気候が崩壊の危機にあります。気候崩壊とはどんなことか、どうやったら止められるか、キホンから学んでみませんか。

セミナー内容

第 1 回「地球規模の気候崩壊」

第 2 回「気候崩壊をどうやって止めるか ～個人やグループでできること～」

第 3 回「気候崩壊をどうやって止めるか ～政治やシステムへの働きかけ～」

2020 年開催スケジュール

開催日時)

11 月コース 14 日、21 日、28 日（土曜日）

時間）20 時～22 時（講義 1 時間、意見交換 1 時間）

講師）中森正茂（理事）

参加費）各コース 3 回で、1,500 円

（学生は無料、学生証の写メを提示してください）

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

お申し込みはメール、またはホームページからお願いします。

メール hasegawa@motherearthresearchinstitute.org

ホームページ <https://www.motherearthresearchinstitute.org/>

「自然とともにある暮らしで心も体も健康に」

理事 中森正茂

私は神奈川で16年間会社勤めをした後、環境 NGO に転職し、2009 年に持続可能な暮らしをめざし福島県の裏磐梯に移住しました。現在は、畑や薪割りなど食とエネルギー自給の取り組みをしながら、気候変動の情報発信や講師、フリーランスで東京の会社の業務のテレワーク、地域の宿泊業の方のウェブサイト構築、地域の自治会の活動など様々な活動をしています。

今の暮らしに至る経緯としては、会社員をしている頃に友人に誘われ登山をした時、何とも言えない心地よさを感じたことから、自然の中で活動をするワークショップに参加したり、環境問題を知るための情報を集めるようになりました。あるワークショップでログハウスを建てる体験をした時は、大きなローンを組まなくても家は自分で建てることができるという実感を得ることができました。そのように、自然体験を重ねると同時に、環境問題の現状を知って危機感が募る中で、自分自身が直接取り組まなければいけないという気持ちが強くなり、長く勤めていた会社を辞める決心をしました。

現在住んでいる裏磐梯は磐梯山の北側に位置し、四季がはっきりしている豪雪地帯です。暮らしも自然のリズムに合わせたものとなり、5月の雪解けを待って畑の準備をし、薪を集め、薪を割り、雪に閉ざされる冬には、手仕事やモノづくりをしながら、雪かきも日課となります。IT 関連の仕事をしているので、ネット環境さえあれば自宅で仕事ができます。パソコンに向かったのデスクワークの合間に、外に出て大自然の景色に囲まれて、薪割りや雪かきをすることは、心や体のバランスをとるのにとっても役立っています。落ち込んだり気持ちがモヤモヤした時には、周囲の森や湖畔を散歩し木や草花に触れたり、感じたりすることで気持ちを切り替えたり、そんな環境の中で自分の内面と向き合うと、いろんな気づきがあったりします。会社員の頃、ひどい時には一年の半分くらいは風邪をひいていましたが、暮らしを徐々にシフトさせていくに従い風邪をひく頻度が減り、今では風邪をひくこともほとんどなくなりました。

私が暮らしを変えた大きな理由は、地球環境が悪化し続ける現状に対して、自分ができることを何かしなければということでした。なかでもエネルギー問題への関心が強く、暮らしの中でいろいろと取り組んでいます。エネルギーシフトの基本は、まずはエネルギー消費を減らした上で、どうしても必要なエネルギーは自然エネルギーに切り替えていくことと考えています。我が家では、積極的な節電や断熱工事などでエネルギー消費を大きく減らしました。また、太

陽光発電と薪ストーブがエネルギーの要となっており、それでかなりの部分を賄うことができおり、冬は暖房、給湯、調理は薪ストーブひとつでできています。

自然の中の暮らしは、「薪」ひとつとっても、そこから多くのことを気づかせてもらうことができます。最初は薪を見ても木の種類が分からなかったのですが、毎日使うことで、木の燃え方や性質、樹種が分かるようになりました。自分で建物のリフォームもするので、建材として木を見ると、木の違った側面も見えてきます。木ともっと親しくなりたいと思い、木工細工も手掛けるようになりました。暮らしの中で木に触れ、木を活かすことで、自然と木に対する感謝の念が湧いてきて、今では木をととても身近な存在に感じています。

薪割りや雪かき作業で外にいと、美しい風景に癒されることも多く、特に朝夕の光の美しさは言葉では言い表しがたいものです。会社員時代に山に登ったり自然体験を重ねた時にも感じた、あの満たされた感覚は人間が生きていくうえで、とても大事なものだと思うのです。それを暮らしの中で感じられるというのはとても幸せなことです。

「母なる地球を守ろう研究所」は一緒に活動してくれる会員を募集しています

年会費 10,000 円

活動内容 zoom セミナー、有機農業の現場で勉強会、有機農法や自然エネルギーの実践、政策提言、そして活動を一般に知ってもらうためのメルマガ発行、パンフや動画の作成などです

ぜひ、みなさんのお力を貸してください。

【入金先】

・ゆうちょ銀行、記号 18260、番号 40716261、母なる地球を守ろう研究所（ハハナルチキュウヲマモロウケンキュウジョ）
・他行からは、ゆうちょ銀行【店名】八二八 【店番】828 【口座番号】4071626を入力お願いします。